

2025年9月3日  
農林中央金庫

## 「インセッティングコンソーシアム」 本格稼働に向けた 第1回全体会合の開催について

～参画企業の拡大とインセッティングにかかるガイドライン策定等の今後の展開～

農林中央金庫（代表理事理事長 北林 太郎、以下「当金庫」）は、食農バリューチェーン（以下「食農 VC」）におけるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブへの移行（トランジション）に向け、2024年8月にインセッティングコンソーシアム（以下「本コンソーシアム」）を設立し<sup>1</sup>、GHG（Greenhouse Gas = 温室効果ガス）削減ソリューション企業および食農 VC 関連企業との連携強化を進めてまいりました。

このたび、本格稼働に向けた第1回目の会合を7月に開催し、これにあわせて、新たに16社が参画したことに加えて、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構をテクニカルパートナーとして迎えましたのでお知らせいたします。

今後、本コンソーシアムではインセッティングの国内における普及を進めるために、ワーキンググループの設立や国内版ガイドラインの策定を進めます。これらを通じて、企業単独では対応が難しい、原材料調達による間接的な GHG 排出（Scope 3）の削減を、川上の生産現場との連携を促進していくことで、当金庫および本コンソーシアムは生産者所得の向上と食農 VC におけるトランジションの実現を目指します。

### インセッティングコンソーシアムの参画メンバーについて

設立当初参画企業：

株式会社すかいらーくホールディングス（代表取締役社長 COO：金谷 実）  
株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永 雅彦）  
株式会社 TOWING（代表取締役 CEO：西田 宏平）

新規参画企業：

株式会社エス・ディー・エス バイオテック（代表取締役社長：竹田 正俊）  
カゴメ株式会社（代表取締役社長：山口 聡）  
兼松株式会社（代表取締役社長：宮部 佳也）  
キッコーマン株式会社（代表取締役社長 CEO：中野 祥三郎）  
クオックロップ株式会社（代表取締役：北垣 卓）  
サントリーホールディングス株式会社（代表取締役社長：鳥井 信宏）  
スターゼン株式会社（代表取締役社長：横田 和彦）  
全国農業協同組合連合会（代表理事 理事長：桑田 義文）  
日清食品ホールディングス株式会社（代表取締役社長・CEO：安藤 宏基）

<sup>1</sup> 設立時のプレスリリース [「インセッティングコンソーシアム」設立について](#)

株式会社バイオセラー（代表取締役：河野 良平）  
株式会社ファミリーマート（代表取締役社長：細見 研介）  
株式会社フェイガー（代表取締役：石崎 貴紘）  
明治ホールディングス株式会社（代表取締役社長：松田 克也）  
森永乳業株式会社（代表取締役社長：大貫 陽一）  
DSM 株式会社（代表取締役社長：丸山 和則）  
Green Carbon 株式会社（代表取締役：大北 潤）

テクニカルパートナー：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（理事長：久間 和生）

## 1 インセッティングを取り巻く動向について

インセッティングは、企業が自社の VC 上での間接的な GHG 排出（Scope 3）の削減に向けて、VC 上で投資や支援を行うことで、VC 全体で GHG 削減等の環境価値の創出とネイチャーポジティブへの移行を企図する概念です。

Scope 3 の削減は自社のみならず、VC 上の幅広いステークホルダーとの連携が必要とされている中で、インセッティングの概念は注目を集めており、炭素会計にかかる国際基準等の中でも実装に向けた議論が進んでいます。一方で国内においては、インセッティングの概念は未だ十分には浸透していません。

特に農林水産業を VC 上の調達先とする食品メーカーや小売等の食農関連企業においては、農業生産における GHG 削減や自然へのインパクト低減が求められる中で、インセッティングの実装が不可欠でありながら、トレーサビリティの不足等から、食農関連企業における農業者の生産状況の理解や投資・支援のための接点構築にかかる動きは十分に拡大していません。当金庫はこうした現状を踏まえて、本コンソーシアムを昨年設立し、参画企業の皆さまとともに議論を進めてきました。

## 2 本コンソーシアムの対応について

食農 VC におけるインセッティングを促進するためには、幅広いステークホルダーが連携し、生産現場の脱炭素やネイチャーポジティブに資する農法や技術、資材の検討を進め、VC 全体でその導入・普及を支援していく仕組みが重要です。

本コンソーシアムでは、設立の趣旨として先述のステークホルダー間の連携を掲げ、このたび新たな賛同企業、テクニカルパートナーを迎え、その連携を一層強化していきます。また、企業においてインセッティングが確かなインセンティブとなるように、VC での脱炭素やネイチャーポジティブに向けた投資や支援が、Scope 3 の削減に実際につながり、国際基準においても認められることが必要です。本コンソーシアムでは、インセッティングを含めた炭素会計にかかる国際的な議論をキャッチアップし、かつ国内の生産現場の実情や食農関連企業の商慣行に沿った運用を進めるために、インセッティングの基準等にかかる国内版ガイドラインの策定を進めていくこととしています。

## 3 第 1 回全体会合について

今回コンソーシアムを構成するメンバーが参加のうえ、7月に第 1 回目の全体会合を開催しました。会合では、対応方向の報告に加えて、農業分野の脱炭素と政策動向、インセッティングの国際動向にかかる基調講演をいただいた他、ソリューション企業によるピッチ形式での技術紹介を実施しました。また、メンバー間でのネットワーキングも活発に行われ、連携を強化する貴重な機会となりました。

#### 【基調講演】

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 須藤 様（オンライン参加）  
経済産業省 GX グループ 環境経済室 室長補佐（役職は 2025 年 7 月当時） 折口 様

【当金庫常務執行役員 土田の開会あいさつ】



【経済産業省 折口様 基調講演】



【会場の様子】



【ネットワーキングの様子】



## 4 今後の取組み

今後は、先述のガイドラインの策定等、国内のインセッティング浸透に向けて、本コンソーシアム内に「米穀」、「畜産」、「土壌」の3つのワーキンググループを設立し、実践的な議論を進めていきます。

また、農業の生産現場を含めた食農 VC 全体のカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブへの移行（トランジション）を目指すうえで、食農 VC にかかわる幅広いステークホルダーの皆様との連携が不可欠と認識しています。本コンソーシアムは引き続きご賛同いただける企業、団体等の皆さまの参画をお待ちしております。

### 農林中央金庫について

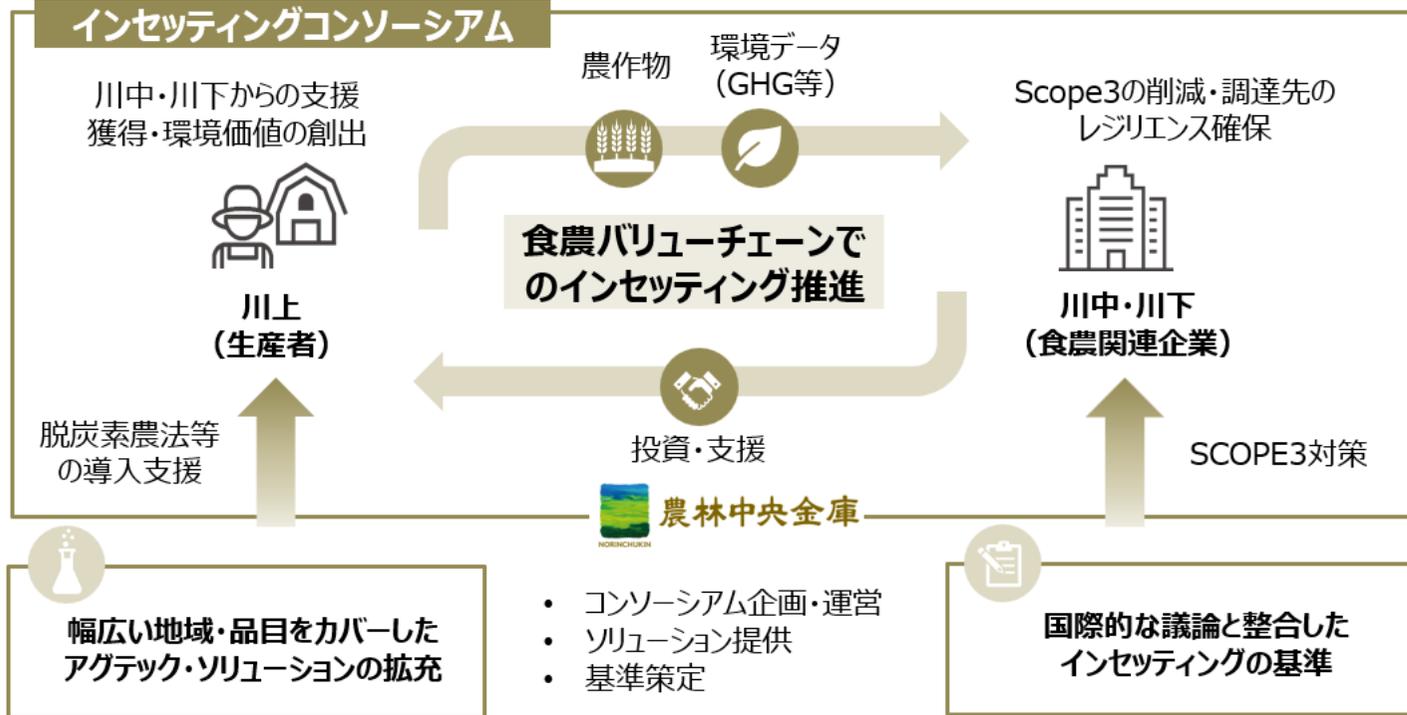
当金庫は、「持てるすべてを『いのち』に向けて。～ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます～」をパーパス（私たちの存在意義）として定めています。パーパスの実現に向けて、食農関連産業を含み、川上から川下までの食農バリューチェーンを俯瞰して、その移行（トランジション）を図っていくことが重要になるものと当金庫は考えております。当金庫は、本コンソーシアムをはじめ多様なステークホルダーとの連携の中で、食農バリューチェーンのトランジションを推進していきます。

概要	農業協同組合（JA）、漁業協同組合（JF）、森林組合（森組）等を会員とした協同組織の全国金融機関
住所	〒 100-8155 東京都千代田区大手町 1-2-1 Otemachi One タワー
代表者	代表理事理事長 北林 太郎
設立日	1923 年 12 月 20 日
パーパス	持てるすべてを「いのち」に向けて。 ～ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます～
URL	<a href="https://www.nochubank.or.jp/">https://www.nochubank.or.jp/</a>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】  
農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班  
（藏方・丹羽） Tel : 03-6362-7172

【別紙】インセッティングコンソーシアムの概要および参画メンバーについて



参画メンバー

